

実践記録（小5・道徳）

1 ねらい

他者の考え方に触れ、共に学び合うことで、他者に対する思いやりの心や相手の立場を考える態度を育てる。

2 手立て

多様な価値観を可視化するためのワークシート【資料1】

日常モラルを高めるために、話し合いを通して、多様な価値観を取り入れて、自分の考えを見直す活動を取り入れる。

ワークシートの基本構造として、「自分の最初の考え」、「自分の考えに対する友達の考え」、「見直した自分の考え」の枠組みを設ける。自分の考えをワークシート上に残すだけでなく、付箋紙を用いて、他者の考えも可視化してワークシート上に残すことで、話し合いを想起し、心に残った考えを基に、自分の考えを見直すことができるようにする。

ワークシートの基本構造【資料1】

3 実践の様子

携帯電話のメッセージによって生じたトラブルが、顔と顔を合わせた直接的な場面で行われていたら、物語の展開が「A 同じ様なトラブルになる」

「Bトラブルにはならない」という立場で考えさせ、その理由について付箋紙を用いて話し合わせる活動を行った。立場を明確にするために、Aの立場は赤色の付箋紙、Bの立場は青色の付箋紙に分けて書かせ、話し合いを行わせると、貼られた付箋紙を見て、「〇〇さんが貼ってくれたこの考えは、どういうこと？」という問い掛けに対し、「直接話していれば、その場で聞き返したりできるから、トラブルにまではならないと思う」と、意欲的に話し合う姿が見られた【資料2】。最初はAの立場として考えを述べていた児童は、「Aの立場ですが、顔を合わせていれば、その場で止めることができるという考えはよいと思いました」と述べ、Bの立場の考えを取り入れて、考えを見直していた。また、授業の最後に、友達との関わり方について大切にしたいことについて書かせると、



付箋紙を基に話し合う様子【資料2】

「スマホを通じて話すときや直接会って話すときなどは、友達が嫌な気持ちにならないように話したい」と書き、相手の立場を考えたコミュニケーションを意識する感想が多く見られた【資料3】。

ワークシートの記述内容【資料3】

4 成果と課題

- 付箋紙に書かれた記述内容を見返すことで、話し合いの振り返り、様々な立場があることを踏まえて自分の考えを見直すことができた。
- 道徳資料の内容の把握と話し合いの時間の比重の置き方が難しく、自分の立場に置き換えて考える時間が短くなってしまった。